



さとやま

11月に見られるいきもの



写真は、刈り取り・脱穀が終わった田んぼです。稲わらを乾燥させるために作る円錐形の「すすみ」は、里山ならではの風景です。今年の10月は、上旬は冷房がいくほどの暑さから一転、中旬以降突然の気温低下で、異常気象には慣れっこになっていましたが驚かされました。生き物たちは、そんな環境に対応できているのか心配ですが、例年11月に見られるものをご紹介します。

花の種類が減ってきた里ですが、ビオトープ上の池やその上の水たまり付近などには、[フユノハナワラビ](#)がたくさん出ます。これは花ではなく、シダ植物の胞子葉です。熟したものは、触ると埃のような胞子が飛び出します。花に代わり、草や木の実が目立つようになり、上の池では反り返った果皮の中から赤い[ツルウメモドキ](#)の実が出てきます。

8月号でご紹介した[カラスウリ](#)と[スズメウリ](#)、それぞれ朱色と灰白色に色付いてきます。小草池の道では、[ナンキンハゼ](#)の果皮が割れ、白い実が現れます。

万灯山エリアでは、[コウヤボウキ](#)の花や、[ヤマノイモ](#)の実やむかごがあちこちで見られます。ヤマノイモは雌雄異株ですが、雄株もむかごでふえることができます。

山頂では前回ご紹介した、[アキノキリンソウ](#)と[ツリガネニンジン](#)の花に交じって、胃の薬になる[センブリ](#)の花がみつかることがあります。

小春日和の一日、里を散策して晩秋の風景を楽しんでみませんか。



フユノハナワラビ



ツルウメモドキ



カラスウリ



スズメウリ



ナンキンハゼ



コウヤボウキ



ヤマノイモ



センブリ

里の生き物紹介

ひっつきむし

爽やかな秋、自然の中を散策するのは楽しいですが、厄介なのは衣服につく「ひっつきむし」、獣の毛について種子を散布させる方法を獲得した植物で、様々な種類があります。秋に里で見られるひっつきむしをあまり知られていない花と一緒にご紹介します。

—逆さ針型—針が逆さまについているもの

イノコヅチ（ヒユ科）



林の道沿いによく見られます。節が猪の子の膝頭に似ていることから名がついたと言われています。実に2つの針が逆さまについていて、衣服にびっしりつくとなかなか取れない厄介者ですが、8月にはかわいい花が穂の下から上に順番に咲きます。

—逆さ棘型—逆向きの棘のある突起によって引っかかるもの

コセンダングサ・アメリカセンダングサ（キク科）



栴檀（せんだん）の木の葉に似た葉をもつセンダングサの仲間です。

花が終わった頃からくっつくことができ、1つの花の集まりをそのまま摘んで服につけることができます。実が熟すと、1つ1つの種子が離れてくっつきます。

アメリカセンダングサは外来種です。センダングサより少し早めに花が咲きます。花の集まりのがくのように見える総苞が長く、たてがみのようにつくことで見分けられます。

ササクサ（イネ科）

葉の形が笹の葉に似ていることから名が付けられました。イネ科なので、花は目立ちません。

果実の先の突起に棘がついていて衣服につきます。外そうとすると、先端が切れて残るので、やっかいです。



—かぎ針型—針の先がかぎになっているもの

オオオナモミ（キク科）

在来種のオナモミは数が減り、長円寺付近に群生しているものは、北アメリカ原産のオオオナモミのようです。名は、引っかかるという意味の「なすむ」から変化したと言われています。花は目立ちません。



—面テープ型—細かい鉤が密生するもの

ヌスビトハギ・アレチヌスビトハギ（マメ科）



アレチヌスビトハギは外来種です。実は、一つ一つ分けることができます。

ヌスビトハギの実は一つの花に2つで、まるでメガネのようです。

アレチヌスビトハギは花が大きく、1つの花に3～4個の実ができます。繁殖力が強そうです。



—粘液型—粘液でくっつくもの

チヂミザサ（イネ科）



葉の形が笹に似ていて、縮んだようなしわがあるため名が付けました。

花は葯が紫色でササクサよりは目立ちます。果実が熟すと粘液が出てくっつきます。雨が降ると粘液に水滴がついてきれいです。衣服についたものを取ろうとすると、手がベタベタし、衣類にも粘液が残ります。

衣服についたひっつきむし、取ってしまう前にじっくり観察してみましょう。場所を覚えておき、翌年少し早い時期に、花の姿も探してみてください。

10月の行事紹介



青空のもと、10月24日(日)「棚田で稲作しようⅢ(脱穀)」を開催しました。

参加者で、2週間前に稲刈りし、稲をはぎに掛けて天日干しして乾かしたので、今日は稲の穂先から籾を落とす作業「脱穀」を行いました。脱穀にも色々な方法があって、足で金具の付いたドラムを廻す、昔ながらの方法で脱穀を行いました。

日本人の主食「お米」がどうやって食べられるのか、身をもって体験でき楽しかったです。

11月の行事予定

14日(日)	里山の落とし物でケーキを作ろう	20名	AM9:30~11:30	河江喜久代
21日(日)	竹を切ってみよう!	20名	AM9:30~11:30	にしお環境市民塾

12月の行事予定

5日(日)	自然の素材で“クリスマスリース”を作ろう	20名	AM9:30~11:30	礒貝はるみ
19日(日)	正月飾りを作ろう	20名	AM9:30~11:30	当園職員

※12月開催の2講座は当日材料費(5日:200円・19日:300円)を徴収します。なお、お申込みは、ご家族2人分までの材料とし、お子さま等と一緒に作るようご協力ください。

- ◆参加受付は、各講座3週間前の午前8時30分から先着順で来園、または電話にて受付します。また、お申込みは本人、もしくはそのご家族までとします。
- ◆参加申込者は傷害保険に加入のため、小学生以上の方とします。なお、小さいお子さまをお連れいただいても構いませんが「見学扱い」とし、傷害保険の加入はありません。
- ◆天候や少数(6名以下/1講座)、コロナ禍などにより「講座の中止・延期」、または「受講内容の変更」する場合があります。
- ◆原則、参加費は無料ですが材料費などは実費を申し受けます。
- ◆詳細な講座の内容などは、直接ネイチャーセンターにご確認ください。

西尾いきものふれあいの里

◆ところ 〒445-0031 愛知県西尾市家武町小草3番地 Tel・Fax 0563-52-0266

◆休日 毎週月曜日・祝日の翌日・年末年始[12/28~1/4] ◆発行 西尾市環境部 環境保全課